

Title	表紙・原稿作成要領・編集後記・裏表紙ほか
Author(s)	
Citation	物性研究 (1992), 58(6): 679-679
Issue Date	1992-09-20
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/94934">http://hdl.handle.net/2433/94934</a>
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可  
平成4年9月20日発行(毎月1回20日発行)  
物性研究 第58巻 第6号

ISSN 0525-2997

**vol.58      no.6**

# 物性研究

**1992/9**

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、特別寄稿、研究に関連した諸問題についての意見などです。
2. 本誌に投稿された論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集委員会で本誌への掲載が不適当と判断された場合には、改訂を求めること、または掲載をお断りすることがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で、**private communication** 扱いにして下さい。

### 原稿作成要領

1. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
2. 別刷ご希望の方は、投稿の際に50部以上10部単位で、必要部数、別刷送付先、請求先を明記の上、お申し込み下さい。
3. **ワープロ原稿の場合**  
ワープロ原稿を歓迎します。原則として写真製版でそのまま印刷されますので、以下の点に注意して原稿を作成して下さい。（特に希望される場合には、こちらでタイプし直すことも可能ですが、経費の節約のため、できるだけ写真製版できる原稿をお願いします。）
  - 1) 用紙はB5またはA4を縦に使用。（印刷はB5になります。）
  - 2) マージンはB5で、上下あわせて約4.5cm、左右あわせて約4cm。
  - 3) 1ページに本文34行、1行に全角文字で42字。
  - 4) 第1ページは、タイトルはセンタリング、所属・氏名は右寄せにして、余白を十分にとって下さい。
  - 5) 図や表は、本文中の適当な箇所に貼り込み、図の下にキャプションを付けて下さい。
  - 6) 体裁については、上記は一応の目安ですので、多少の違いがあってもかまいません。
4. **手書き原稿の場合**
  - 1) 原稿は400字詰原稿用紙に丁寧に書いて下さい。
  - 2) 数式は大きく明瞭に書き、1行におさまらない場合の改行箇所を赤で指定して下さい。
  - 3) 数式、記号の書き方は、Progress, Journal の投稿規定に準じ、立体（ $\square$ ）、イタリック（ $\textit{\_}$ ）、ゴシック（ $\text{\textbf{\_}}$ ）、ギリシャ文字（ $\text{\textbf{\_}}$ ）、花文字、大文字、小文字などを赤で指定して下さい。本誌は立体を基本としてタイプされますので、式にも必ず、イタリック、立体を指示して下さい。また、著者校正はありませんので、特に区別しにくいcとe、eとl、vとu、uとn、l（エル）と1（イチ）、O（オー）と0（ゼロ）、x（エックス）と $\times$ （カケル）、 $\dagger$ （ダガー）と+（プラス）、 $\psi$ と $\phi$ と $\Psi$ と $\Phi$ なども赤で指定して下さい。
  - 4) 図は写真製版できるもの（こちらではトレースはいたしません。）を図の説明と共に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、特別寄稿、研究に関連した諸問題についての意見などです。
2. 本誌に投稿された論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集委員会で本誌への掲載が不適当と判断された場合には、改訂を求めること、または掲載をお断りすることがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で、**private communication** 扱いにして下さい。

### 原稿作成要領

1. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
2. 別刷ご希望の方は、投稿の際に50部以上10部単位で、必要部数、別刷送付先、請求先を明記の上、お申し込み下さい。
3. **ワープロ原稿の場合**  
 ワープロ原稿を歓迎します。原則として写真製版でそのまま印刷されますので、以下の点に注意して原稿を作成して下さい。（特に希望される場合には、こちらでタイプし直すことも可能ですが、経費の節約のため、できるだけ写真製版できる原稿をお願いします。）
  - 1) 用紙はB5またはA4を縦に使用。（印刷はB5になります。）
  - 2) マージンはB5で、上下あわせて約4.5cm、左右あわせて約4cm。
  - 3) 1ページに本文34行、1行に全角文字で42字。
  - 4) 第1ページは、タイトルはセンタリング、所属・氏名は右寄せにして、余白を十分にとって下さい。
  - 5) 図や表は、本文中の適当な箇所に貼り込み、図の下にキャプションを付けて下さい。
  - 6) 体裁については、上記は一応の目安ですので、多少の違いがあってもかまいません。
4. **手書き原稿の場合**
  - 1) 原稿は400字詰原稿用紙に丁寧に書いて下さい。
  - 2) 数式は大きく明瞭に書き、1行におさまらない場合の改行箇所を赤で指定して下さい。
  - 3) 数式、記号の書き方は、Progress, Journal の投稿規定に準じ、立体（ $\square$ ）、イタリック（ $\textit{\_}$ ）、ゴシック（ $\text{\textbf{\_}}$ ）、ギリシャ文字（ $\text{\textbf{\_}}$ ）、花文字、大文字、小文字などを赤で指定して下さい。本誌は立体を基本としてタイプされますので、式にも必ず、イタリック、立体を指示して下さい。また、著者校正はありませんので、特に区別しにくいcとe、eとl、vとu、uとn、l（エル）と1（イチ）、O（オー）と0（ゼロ）、x（エックス）と $\times$ （カケル）、†（ダガー）と+（プラス）、 $\psi$ と $\phi$ と $\Psi$ と $\Phi$ なども赤で指定して下さい。
  - 4) 図は写真製版できるもの（こちらではトレースはいたしません。）を図の説明と共に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。

## 編集後記

ワークステーションはおろかパソコンでさえ普及していなかった頃に、有名なSF作家の作品でコンピュータ時代の極致を扱った短編があった。兄弟の間でさえ共有できる言語がなくなるほどコンピュータ言語の進化速度が激しくなり、これが自然言語の進化(?)を促進し、日常会話は極端に縮約化されて同世代でしか通用しない「か?」とか「く。」とかですむようになる。挙げ句、言語は思考を支配し思考形態そのものも変貌していくという恐ろしい話である。客に食事を出す際、昔から「け、け。」ですむ地方があるというが、これは十分にもてなす気持の込められた完全な日本語の文であって、これとは違う。

しばらく敬遠していたのに、ワークステーションが普及してきて覚えざるを得なくなってきたUNIX言語の無愛想さに悩まされているのは、私だけだろうか? 今まで馴染んできたTSS言語やパソコンのMSDOSの主要な部分は、少なくとも中学程度の英語力があればコマンドの内容や機能におよその察しがつくようにできていた。入力するときには、自然言語の文を読んだり書いたりするときと同様、「リスト」とか「セグ」とか頭の中で声を出して読みながらキーを打つ。それがUNIXではどうだ。子音だけで書いたlsとかshとかlprとか、意味不明なばかりか、どうにも読めないものがやたら出てくる。コンピュータをおもちゃにして育ってそのメカニズムを知り尽くし、しかも流れるようにキーボードを打てる若い人にとっては、もはや読む速さでは遅すぎて追いつかないのだろう。コマンドやプログラム言語は人間とコンピュータの間のインターフェイスであって、コンピュータを売り込んでいく過程のある一時期に人間側に譲歩して自然言語の形をとったに過ぎないから、コンピュータが判別できればよいのであって、それ以上の意味を持つ必要など元々ない。現に我家の下の子はパソコンで「クミミ」とか「マテ」とかやって結構遊んでいた。UNIXは、そんな世代が形成された時代に、元々読む速さでタイプライタを打つことのできる人々が生活していた国で作られた言語なのだ。中年の日本人が悩まされるのは仕方がない。むしろ、ディスプレイとキーボードに交互に目をやりながら一本指でlist printer(?)と打つよりは、コマンド一覧表を座右に置いてでもlprと打つ方が確実に短い時間で済むことをありがたいと思うことだ。

夏休み中の編集会議をさぼったのに編集後記のノルマを果たさなくてはならなくなって、またまた全く本誌に関係ないことで行を稼いでしまった次第。さて、今回は「マック風メニュー人間」のことも思い巡らしてみよう。(H.T.)

---

物 性 研 究 第58巻第6号 (平成4年 9 月号) 1992年9月20日発行

発行人	池 田 研 介	〒 606	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所	〒 606	京都市百万辺交叉点上ル東側 TEL (075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒 606	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内

年額 19,200 円

---

## 編集後記

ワークステーションはおろかパソコンでさえ普及していなかった頃に、有名なSF作家の作品でコンピュータ時代の極致を扱った短編があった。兄弟の間でさえ共有できる言語がなくなるほどコンピュータ言語の進化速度が激しくなり、これが自然言語の進化(?)を促進し、日常会話は極端に縮約化されて同世代でしか通用しない「か?」とか「く。」とかですむようになる。挙げ句、言語は思考を支配し思考形態そのものも変貌していくという恐ろしい話である。客に食事を出す際、昔から「け、け。」ですむ地方があるというが、これは十分にもてなす気持の込められた完全な日本語の文であって、これとは違う。

しばらく敬遠していたのに、ワークステーションが普及してきて覚えざるを得なくなってきたUNIX言語の無愛想さに悩まされているのは、私だけだろうか? 今まで馴染んできたTSS言語やパソコンのMSDOSの主要な部分は、少なくとも中学程度の英語力があればコマンドの内容や機能におよその察しがつくようにできていた。入力するときには、自然言語の文を読んだり書いたりするときと同様、「リスト」とか「セグ」とか頭の中で声を出して読みながらキーを打つ。それがUNIXではどうだ。子音だけで書いたlsとかshとかlprとか、意味不明なばかりか、どうにも読めないものがやたら出てくる。コンピュータをおもちゃにして育ってそのメカニズムを知り尽くし、しかも流れるようにキーボードを打てる若い人にとっては、もはや読む速さでは遅すぎて追いつかないのだろう。コマンドやプログラム言語は人間とコンピュータの間のインターフェイスであって、コンピュータを売り込んでいく過程のある一時期に人間側に譲歩して自然言語の形をとったに過ぎないから、コンピュータが判別できればよいのであって、それ以上の意味を持つ必要など元々ない。現に我家の下の子はパソコンで「クミミ」とか「マテ」とかやって結構遊んでいた。UNIXは、そんな世代が形成された時代に、元々読む速さでタイプライタを打つことのできる人々が生活していた国で作られた言語なのだ。中年の日本人が悩まされるのは仕方がない。むしろ、ディスプレイとキーボードに交互に目をやりながら一本指でlist printer(?)と打つよりは、コマンド一覧表を座右に置いてでもlprと打つ方が確実に短い時間で済むことをありがたいと思うことだ。

夏休み中の編集会議をさぼったのに編集後記のノルマを果たさなくてはならなくなって、またまた全く本誌に関係ないことで行を稼いでしまった次第。さて、今回は「マック風メニュー人間」のことも思い巡らしてみよう。(H.T.)

---

物 性 研 究 第58巻第6号 (平成4年 9 月号) 1992年9月20日発行

発行人	池 田 研 介	〒 606	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所	〒 606	京都市百万辺交叉点上ル東側 TEL (075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒 606	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内

年額 19,200 円

---

## 会員規定

### 個人会員

#### 1. 会 費：

当会の会費は前納制になっています。したがって、3月末までに次年度分の会費をお支払い下さい。

年会費	1st Volume (4月号～9月号)	4,800円
	2nd Volume (10月号～3月号)	4,800円
		計 9,600円

お支払いは、郵便振替でお願いします。当会専用の振替用紙がありますので、下記までご請求下さい。郵便局の用紙でも結構です。通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。

郵便振替口座 京都1-5312

#### 2. 送本中止の場合：

送本の中止は Volume の切れ目しかできません。次の Volume より送本中止を希望される場合、できるだけ早めに「退会届」を送付して下さい。中止の連絡のない限り、送本は継続されますのでご注意下さい。

#### 3. 送本先変更の場合：

住所、勤務先の変更などにより、送本先が変わる場合は、必ず送本先変更届を送付して下さい。

#### 4. 会費滞納の場合：

正当な理由なく 2 Volumes 以上の会費を滞納された場合は、送本を停止することがありますので、ご留意下さい。

### 機関会員

#### 1. 会 費：

学校、研究所等の入会、及び個人でも公費払いのときは機関会員とみなし、**年会費19,200円**(1 Volume 9,600円)です。学校、研究所の会費の支払いは、後払いでも結構です。申し込み時に、支払いに書類(請求、見積、納品書)が各何通必要かをお知らせ下さい。当会の請求書類で支払いができない場合は、貴校、貴研究所の請求書類をご送付下さい。

#### 2. 送本中止の場合：

送本の中止は Volume の切れ目しかできません。次の Volume より送本中止を希望される場合、できるだけ早めにご連絡下さい。中止の連絡のない限り、送本は継続されますのでご注意下さい。

雑誌未着の場合：発行日より6ヶ月以内に当会までご連絡下さい。

### 物性研究刊行会

〒606 京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内

電話 (075)753-7051, 722-3540

FAX (075)722-6339

物 性 研 究 58—6 (9月号) 目 次

○非平衡熱力学の基礎について.....	清水以知子.....	559
○研究会報告		
「パターン形成、運動およびその統計」.....		587
○編集後記.....		679



物 性 研 究 58—6 (9月号) 目 次

○非平衡熱力学の基礎について.....	清水以知子.....	559
○研究会報告		
「パターン形成、運動およびその統計」.....		587
○編集後記.....		679